

# 歴史ゾーンマップ

	<p><b>鹿児島県歴史資料センター黎明館</b> 人文系の総合博物館として、常設展示、自主企画事業、普及広報、資料研究、県史料編さん等の博物館活動を行っています。 また、敷地は鹿児島城(鶴丸城)本丸の跡であり、敷地内には歴史を刻む多くの記念碑が残されています。</p>		<p><b>西郷南洲顕彰館</b> 全国から西郷隆盛直筆の書翰などの資料を収集し、郷土の青少年や本県を訪れる人々に参観してもらうために建設されました。100名収容できる別館展示学習室では、ビデオ視聴をはじめ、西郷隆盛や西南戦争に関する図書2,000冊の閲覧もできます。</p>		<p><b>伊東祐享(すげゆき)元帥誕生地</b> 明治27(1894)年、日清戦争のとき、連合艦隊の司令長官として、大きな勝利をあげましたが、清国の提督丁汝昌の才能を惜しんで、助けようとした話しや丁提督の柩を丁寧に送った話しは、全世界に伝えられ、最高の礼節として賞えられました。</p>		<p><b>若永三五郎銅像</b> 天保11年(1840)、時の家老調所広郷に藩内一円の土木事業責任者として肥後(熊本県)から招かれ、甲突川の五石橋の架橋や道路工事など、幾多の事業を成し遂げました。</p>
	<p><b>鹿児島城(鶴丸城)跡</b> 17世紀初め、島津家18第当主家久が築いた天守閣を持たない館造りの城で、270年間にわたって島津氏の居城でした。 鶴が翼を広げた形に似ていることから、鶴丸城と呼ばれていました。</p>		<p><b>福昌寺跡</b> 鎌倉時代から700年に渡って続く島津氏の墓場があります。6~28代の当主とその家族のお墓や島津氏に関わった人々のお墓も「由緒墓」として多く残されています。また、フランシスコ・ザビエルが鹿児島滞在中に、宿所としていたところでもあります。</p>		<p><b>仁王堂水</b> その昔、仁王様を備えていた御堂があり、その脇から湧き出ている水を「仁王堂水」と呼んでいるそうです。この通りは、今和泉島津家下屋敷跡、桐野利秋(中村半次郎)の邸宅跡でもあり、「篤姫」や「半次郎」も喉を潤していたといわれています。</p>		<p><b>西南戦争官軍戦没者慰霊塔</b> 西南戦争最後の決戦場となった鹿児島でも、多くの将兵が倒れ、そのうちの官軍将兵1,270人は全員がこの祇園之洲に葬られました。1955年(昭和30)地下納骨堂に合葬され、西南戦争100年に際して慰霊塔が建てられました。</p>
	<p><b>薩摩義士碑</b> 1755年、80余名の犠牲者を出しながら岐阜県の木曾川治水工事を完成させた、薩摩藩家老の平田靱負(ひらたゆきえ)率いる約1,000名の偉業を義士として讃えた慰霊碑です。</p>		<p><b>奈良原助八の碑</b> 16歳から島津家第11代忠昌に仕えた薩摩藩士。主君忠昌公が清水城にて自刃し果てた後、福昌寺の蓮池のほとりで主君を追い自刃した薩摩藩最初の殉死者と言われています。子孫には、生麦事件の「奈良原喜左衛門」、沖縄県知事になった「奈良原繁」がいます。</p>		<p><b>鶴嶺高等女子校跡</b> 明治29年3月、この地に2階建ての校舎を新築し、鹿児島市平之町から私立女学校を移転。大正12年「鹿児島市立鶴嶺高等女学校」と改称、昭和15年「鹿児島市立高等女子学校」に吸収合併、昭和25年「鹿児島玉龍高等学校」となりました。</p>		<p><b>薩英戦争記念碑</b> 「生麦事件」をきっかけに文久3年(1863)7月2日、薩英戦争の開戦となりました。洋式汽船3隻、貿易船5隻と砲台を破壊され、集成館も焼失しました。また、烈風に煽られて市街地のかなりの部分(上町のほとんど)が焼かれました。</p>
	<p><b>西郷隆盛終焉の地</b> 西南戦争末期、1877年(明治10)9月24日、政府軍の総攻撃が行われました。流れ弾を受けた西郷隆盛は、「晋どん、もうここよか。」と東を向き、別府晋介の介錯により、この地に果てたと言われています。</p>		<p><b>藤島武二郎跡</b> 鹿児島が生んだすぐれた明治の洋画家の一人です。フランス留学からの帰国後、美術学校の教授となり、多くの画家を育て、美術界に影響を与えました。昭和12年には、第1回の文化勲章を受章しました。代表作は、「黒扇」(国の重要文化財)。</p>		<p><b>本立寺跡</b> 初代忠久から貞久までの島津家5代の墓石塔が残っています。21代吉貴の時代には、寺門も再建され、壮大な寺院だったそうです。</p>		<p><b>祇園之洲砲台跡</b> この辺り一帯は昔、祇園浜と呼ばれていましたが、天保年間時の家老調所広郷が藩主晋興に上申して、兵士の屯集所として埋め立てました。その後、斉彬の時代に大砲10座が据えられ、薩英戦争時に活躍しました。</p>
	<p><b>砲弾跡</b> 明治10年(1877)5月から、政府軍と西郷軍の間に激しい攻防が繰り返されました。特に、この私学校周辺では同年9月に、主として政府軍によって放たれた銃弾の跡が今でも生々しく残っています。</p>		<p><b>今和泉島津家屋敷跡</b> 第13代將軍徳川家定の御所となった篤姫が生まれたといわれる今和泉島津家の屋敷跡で、敷地は4,608坪もあります。現在、屋敷は残っていませんが、当時を偲ばせる石垣が通りに面して残っています。</p>		<p><b>大乗院跡</b> 薩摩藩での真言宗の中心になるお寺であり、祈願所でもありました。8代貞貴が伊集院に荘厳寺を創建し、15代貞貴が松峰山麓に移し大乗院としました。弘治2年(1556)、清水城館(今の清水中学校)に移転しました。</p>		<p><b>フランシスコ・ザビエル上陸記念碑</b> 日本でキリスト教を布教する決意を固め、天文18年(1549)8月15日鹿児島に上陸しました。場所は薩摩水軍軍港(現春日神社辺り)と考えられます。上陸地に近いので、鹿児島市がベルギーのルイ・フランセに依頼し、設置しました。</p>
	<p><b>私学校跡</b> この地は、かつて島津藩の旧邸跡で、明治7年(1874)に私学校が設立され、明治10年の西南戦争により廃止されるまで、西郷隆盛らによって私学校生徒の教育が行われたところです。</p>		<p><b>内城・大龍寺跡</b> 島津家15代貞久が本家の後継者となり、清水城に変わる本城として天文19年(1550)に伊集院から鹿児島に移り創建しました。この内城は、18代家久が鹿児島城を築くまで、15代貞久、16代義久、18代家久と約50年間の居城となっていました。</p>		<p><b>清水城跡</b> 清水城は、現在の清水中学校の辺りにあり、7代元久から14代勝久まで8世、およそ150年間島津氏が居城としていたところです。</p>		<p><b>石橋記念公園</b> 平成5年(1993)8月6日の集中豪雨による洪水で、「甲突川の五石橋」武之橋と新上橋が流失。残った3橋を貴重な文化遺産として後世に残すため石橋公園が整備され移設保存し、併せて五石橋の歴史や技術伝える記念館を整備して平成12年に開園しました。</p>
	<p><b>鹿児島県政記念館</b> この建物は、1923年(大正12年)8月に着工し、1925年(大正14年)9月に竣工した鹿児島県庁舎本館の玄関部分です。 1996年(平成8年)に、県庁は鴨池へ移転したため、現在では、展示室として活用されています。</p>		<p><b>砲術館跡</b> 第27代島津斉興(なりおき)が政策の重点課題とした「海防と武備」の中の洋式砲術の訓練所の跡です。</p>		<p><b>稲荷神社(鹿児島五社の第三)</b> 島津家初代忠久の母、丹後局(たんのつぼね)が、大阪の住吉神社の境内で、稲荷大明神のお使いの「きつね」が照らした明かりで、無事忠久を出産できたという言い伝えから建てられたと言われています。「きつね」は、島津家の守り神とされています。</p>		<p><b>西田橋御門(復元)</b> 城下の玄関口にあった西田橋の東側に御門があり、城下の武士や町人、領内を通過する旅人は御門脇の番所で改めを受けて通行していました。その後、西南戦争で焼失したと思われ、写真や遺構、市内の仙巖園門等を参考に復元的に整備しました。</p>
	<p><b>加納久知事碑</b> 鹿児島の県政史上最も偉大な知事の一人と顕彰されています。「勤業知事」「教育知事」と呼ばれ、西南戦争の影響で無気力の中にあつた明治の鹿児島を、数年にして「模範県」と称されるまでに向上させた人物です。</p>		<p><b>鹿児島県民教育文化研究所</b> 昭和11年に衣料品等を手広く商っていた藤島喜助氏の邸宅として建てられました。また、贅を尽くしたこの邸宅は、建築当時は鉄の釘を1本も使用していないそうです。現在は、教育や育児に関する相談所として使用されています。</p>		<p><b>南方(諏訪)神社(鹿児島五社の第一)</b> 島津家5代貞久が、南北朝時代に東福寺城を攻め落としてから、建てたものと言われています。この南方神社は、代々の藩主の信仰がもっとも厚く島津氏の氏神になっていました。</p>		<p><b>西田橋(復元)</b> 甲突川の五石橋随一の格式を誇り、石の切り方や積み方も丁寧で、擬宝珠がついた立派な欄干がついています。また、西田橋は、出水へと伸びる主要街道(出水筋)の道筋に並び、鹿児島城下の表玄関としての役割も担っていました。</p>
	<p><b>琉球館跡</b> 江戸時代薩摩藩の支配下にあつた琉球国の国王や役人が滞在する館として建てられ、「琉球仮屋」と呼ばれていました。その後、貿易が盛んに行われるようになると、琉球国を通して中国と貿易するための役所として「琉球館」と改められました。</p>		<p><b>春日神社(鹿児島五社の第四)</b> 年代ははっきりしませんが、長谷場直純が初めて鹿児島に入り東福寺城を築いた頃、船着場に建てられたと伝えられています。また、この付近には、縄文時代の遺跡が発掘され、春日遺跡といわれています。</p>		<p><b>東福寺城跡</b> 島津家5代貞久は、暦応4年(1341)に鹿児島郡司矢上氏一族の守る東福寺城を攻め落とし、薩摩、大隅、日向の3国を支配していく拠点となったところです。島津氏が鹿児島に本城を置いたのはここからで、その後、清水城、内城、鶴丸城が築かれました。</p>		<p><b>高麗橋(復元)</b> 甲突川の五石橋の中で、2番目に長い4連アーチの石橋でした。上流側の水切り石は垂直に近い勾配で立ち上がり橋面近くまで築かれていました。この大きな水切り石や河床に敷かれた数石で水の勢いが減らされ、橋が守られていました。</p>
	<p><b>高崎正風翁の碑</b> 19歳のころ歌人八田知典に師事し、桂園派歌人として活躍しました。 その後、宮中に入り、御歌掛を経て1888年(明治21年)年には、御歌所長となりました。</p>		<p><b>薩摩水軍軍港跡</b> 戦国時代に稲荷川河口に港が築かれたことから、この付近は相当大きな港町だったようです。1609年(慶長14)船1000余隻、兵3,000人の大部隊で琉球を攻め、琉球国の持つ対明貿易の権益を奪った時、この付近が薩摩水軍の軍港だったようです。</p>		<p><b>肝付兼重奮戦之跡の碑</b> 肝付氏は、平安時代末期以降、大隅半島を地盤とした豪族でした。碑文には、暦応3年(1340)8月に東福寺城に入城し、長谷場秀純と共に島津軍と8ヶ月にもわたって奮戦したことなどが記されています。</p>		<p><b>玉江橋(復元)</b> 甲突川の五石橋の中では一番上流にあり、最後につくられた4連アーチの石橋でした。城下町郊外で通行量も少ないため橋幅も一番せまく、また他の石橋に比べると建設費も格段に少なく、造りもやや粗末なことなどから実用橋として利用されていたようです。</p>
	<p><b>南洲墓地</b> 西南戦争で戦死した西郷隆盛以下2,023名が埋葬され、出身地別に立てた合葬墓もあつて750基の墓碑が並んでいます。また、1879年(明治12)に設けられた参拝所は、1922年(大正11)西郷隆盛を祀る南洲神社となりました。</p>		<p><b>森有礼碑</b> 藩の開成所で英語を学び、慶応元年(1865)に薩摩藩留学生の一員として渡英、沢井鉄馬と変名してロンドン大学に学びました。明治18年(1885)、伊藤博文内閣が成立すると初代文部大臣に就任し、近代学校体系の骨組みを築きました。</p>		<p><b>東郷平八郎像</b> 明治36年(1903)連合艦隊司令長官になり、翌年日露戦争が始まると、明治38年(1905)、ロシアバルチック艦隊を丁字戦法によって全滅させた大戦果をあげ、当時のイギリスのジャーナリストは、「東洋のネルソン」と讃えました。</p>	<p><b>八坂神社(鹿児島五社の第二)</b> その昔、稲荷川の河口の干潟からと祇園社辺りの一帯を祇園浜(祇園之洲)と呼んでいました。祇園社は明治のなつてから八坂神社と呼ばれるようになり、現在でも八坂神社の祭りは、「御祇園(オギオン)サー」と呼ばれ、鹿児島の夏の大きな祭りになっています。</p>	
	<p><b>南洲神社電燈</b> 大正2年に建設され、高さ4.4メートル、鋳鉄製で、六角形の柱脚や六方に開いた花弁状の柱頭飾りなど近代日本の礎となった旧集成館が製造した数少ない遺構であり、平成18年10月18日付けで文化財登録原簿に登録されています。</p>		<p><b>若宮神社(鹿児島五社の第五)</b> 島津家5代貞久が建てたものです。また、代々藩主を相続するときは必ず報告し、お祭りが行われていました。明治初年までは若宮八幡宮と呼んでいたそうです。境内からは、縄文後期の竪穴式住居が発見され、若宮遺跡といわれています。</p>		<p><b>八坂神社(鹿児島五社の第二)</b> その昔、稲荷川の河口の干潟からと祇園社辺りの一帯を祇園浜(祇園之洲)と呼んでいました。祇園社は明治のなつてから八坂神社と呼ばれるようになり、現在でも八坂神社の祭りは、「御祇園(オギオン)サー」と呼ばれ、鹿児島の夏の大きな祭りになっています。</p>	<p><b>参考文献</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あるくみるいこう「かんまち本その一」</li> <li>・鹿児島市ホームページ</li> <li>・鹿児島市教育委員会案内板等</li> </ul> <p><b>発行</b></p> <p>〒892-8520 鹿児島市小川町3番56号 鹿児島地域振興局総務企画部総務企画課 099-805-7206</p>	